

## 四つの福音書、一つの福音

日本聖公会横浜教区信徒神学校講演「出来事としての福音書」補足資料（山野貴彦）

### ① エイレナイオス『異端駁論』Ⅲ 11:8 2世紀に活躍した教父（教会指導者）

…ケルビムもまた四つの顔を持っており、その顔は神の子のわざの似姿である。第一の生き物は獅子のようであった。これはその力あるはたらき、指導性、王的性を特徴づけている。第二の生き物は子牛のようであった、これは犠牲と祭司の秩序を示している。第三のものは人の顔を備えており、これは人として来られたことを明らかに示している。第四のものは飛ぶ鷲のようであった。これは教会の上を覆う霊の賜物を指し示している。それゆえ福音書はこれらと一致しており、そのただ中にキリストは座しておられるのである…

### ② エウセビオスの記録（『教会史』）における、パピアスの断片 2章 16節

パピアスは2世紀に、その断片を伝えるエウセビオスは4世紀に活躍した教父

…長老たちに随行した人が来ると、わたしは細かく尋ねた。アンデレは何を言ったか、ペトロは何を言ったか、フィリポ、トマス、ヤコブ、ヨハネ、マタイ、もしくは、主の他の弟子は何を言ったか。またアリストティオンと長老ヨハネ、主の弟子たちは何を語っているか。というのも、書物から得られるものよりも、生きて存続している声から来るものの方が、わたしにとって益が大きいと考えたからである。

…さらに彼はマルコについてこう記している。マルコはペトロの通訳者となり、記憶していることを正確に書き留めた。ただし順序通りではなかった。彼は主に直接聞いたのではなく、後にペテロに随行していた。彼は聞いたことを漏らさず、虚偽を加えなかった。マタイについては、主の語録をヘブライ語でまとめ、各人がそれを解釈したと述べている。

### ③ ムラトリ正典表 2-3世紀

ルカによる第三の福音書。この医者ルカは、キリストの昇天の後、パウロが彼を識者として協働した際に、自分の名前で、考えに従ってその書物を著した。しかし、彼自身は、主を肉において見ていなかった。そこで、彼は可能な限りの追跡を行い、ヨハネの誕生から書き始めている。第四の福音書は、弟子たちの中からのヨハネによるものである。彼の仲間の弟子たちや自分の監督たちに勧められて、彼は言った「今日から、わたしとともに三日間断食してください。そして、それぞれに何が啓示されても、互いに語り合しましょう」。その同じ夜、使徒たちの中からのアンデレに啓示があり、皆の者が確認する中で、ヨハネが自分の名によってすべて書き記すようにとのことであった。

### ④ ヒエロニムス『マタイ福音書註解』序文 3 4-5世紀に活躍した教父

エゼキエル書もまた、これら四つの福音書がはるか以前に予示されていたことを証明している。その最初の幻は次のように描写されている。「その中央には四つの生き物のようなものがあつた。その顔は、人の顔、獅子の顔、子牛の顔、そして鷲の顔であつた」。

第一の人の顔はマタイを意味している。彼は人について語るように物語を始めた——「アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図」。第二の顔はマルコを意味している。荒野で獅子のように咆哮する声が聞こえるからである——「荒野で叫ぶ者の声。主の道を備え、その道をまっすぐにせよ」。第三は子牛の顔であり、これは福音記者ルカを前もって示している。彼は祭司ザカリアの物語から書き始めた。第四の顔は福音記者ヨハネを意味する。彼は鷲の翼を取り、高い事柄へと急ぎ進み、神の御言について語る。